市政報告 Vol.3

子どもたちに安全公平な教区環境を まちを支える農業の振興にさらなる注力を

健康福祉委員会にて　川崎市議会議員　矢沢たかお

12月の市議会定例会が21日に閉会しました。私自身は『学校施設の課題について』『都市計画道路の進捗について』『都市農業振興施策について』の3項目について市に質しました。

今回、クローズアップしたいのが、学校施設の課題と都市農業についてです。

学校施設の課題

現在の市立中学校では、プールがない学校が6校、武道場がない学校が13校あり、施設不足が保護者の中の不公平感につながっています。また学校施設の老朽化も深刻で、市の長期保全計画は改築を先延ばしにする内容で、いずれは集中してしまうことが想定されます。この議会での私の指摘に対して川崎市は今後の人口統計等をかんがみ、計画の再検討、また教育環境の整備は必要だと認識の上、施設のコンパクト化含め、設置に向けて検討すると答弁しました。

不公平感、施設の安全は教育現場では当然のこと。この答弁を踏まえ、今後も注視していきます。

都市農業振興

都市部の農業はまちの潤いや、レクリエーション、教育の場、そして有事に機能する防災拠点として機能する大切なものです。しかし、市の予算を見ると公園緑地に20億円、山林に8億円、農地には2億円と差があります。面積の違いもあるかと思いますが、横浜市と比較すると約4分の1.その他の都市と比べてもこの水準は低く、地域の中で多面的な役割を担う農業に関して、川崎市は手薄でないかと考えます。また、都市部の農家の経営状態は厳しく、その多くは不動産に頼っている状態です。人口減で不動産が右肩下がりとなる将来は後継者不足も予想されます。

川崎市では継続して取り組んでいる『かわさき農の新生プラン』、国の都市農業振興基本法に則り策定が進んでいる『川崎市農業振興計画（案）』があります。市には現在の市内の農家の現状を踏まえ、将来にわたって守り続けられるよう施策を進め『農住共生』の実現を目指すよう訴えました。

今年1年も地域みなさんの声に耳を傾け、取組んでいきたいと思います。ご意見等をぜひお寄せ下さい。

矢沢たかお

●昭和60年8月28日　●川崎市宮前区初山生まれ（29歳）

2015年4月初当選

川崎市立菅生小学校卒業／川崎市立菅生中学校卒業／法政大学第二高等学校卒業／法政大学情報科学部コンピュータ科卒業／伊藤忠テクノソリューションズ㈱

議会報告 市政情報 は 矢沢たかお 検索